

# 小金井市 下水道使用料改定に関する 検討について

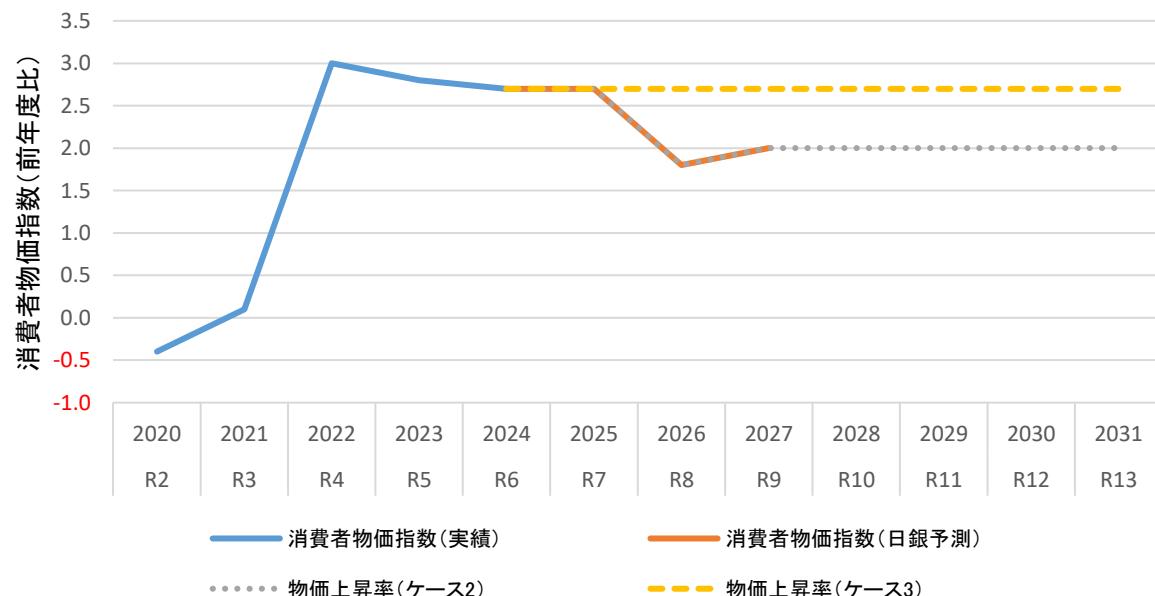
# 次第

1. 前回の審議内容の確認
2. 使用料体系の検討
3. 今後のスケジュール

# 1. 前回審議内容の確認

ケース	物価上昇	目標値	目標改定率
ケース1	物価上昇は考慮しない		15.9%
ケース2	日銀予測+R9以降毎年2.0%の物価上昇	経費回収率を現状と同等とする	20.6%
ケース3	R7以降2.7%の物価上昇		22.2%

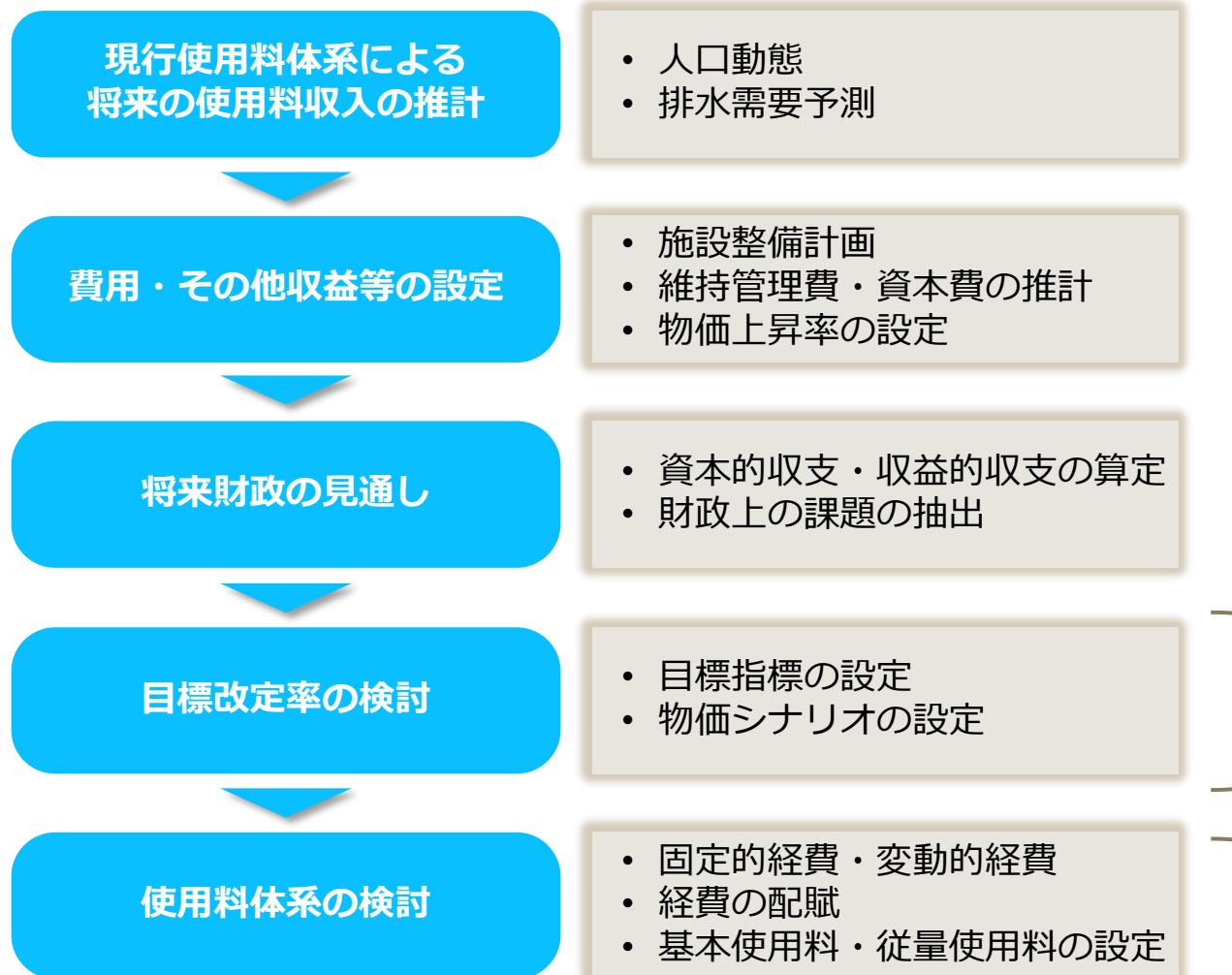
採用案



※前回審議会以降に都から示された将来の建設負担金等を反映したため、ケース2の改定率が20.7%⇒20.6%となっています。

## 2. 料金改定に関する検討

### (1) 料金改定に関する検討フロー



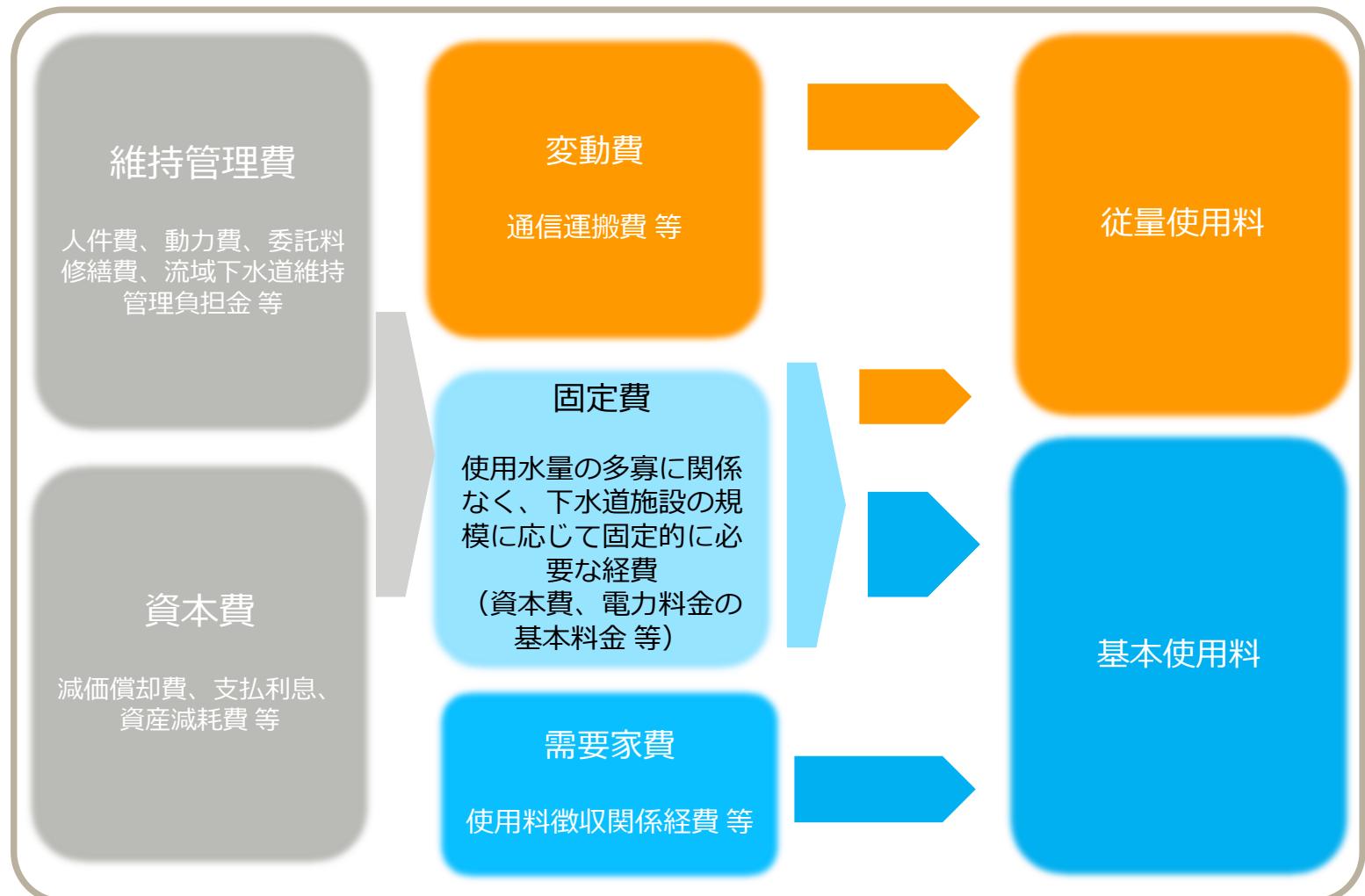
前回審議内容

今回審議会内容

## 2. 料金改定に関する検討

### (2) 改定後の使用料体系の考え方

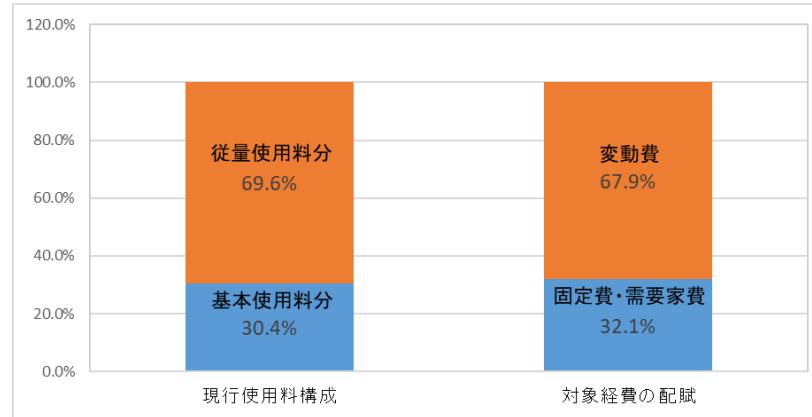
- 基本使用料・従量使用料に分けて検討をしていく。



## 2. 料金改定に関する検討

### (2) 改定後の使用料体系の考え方

- 本市の固定費・需要家費と変動費の案分結果と現状の使用料収入の比率について  
現行使用料における基本使用料と従量使用料の比率と対象経費の配賦結果は概ね同じ  
比率であり、適正な基本使用料と従量使用料の徴収体系となっていると考えられる。



費用※		固定費・需要家費・変動費への案分
資本費	減価償却費	固定費
	支払利息	固定費
維持管理費	職員給与費	固定費
	動力費	変動費
	修繕費	固定費と変動費に案分
	材料費	固定費と変動費に案分
	委託費	固定費と需要家費に按分
	流域維持管理負担金	変動費
	その他	固定費と変動費に案分

※R9年度～R16年度までの費用を推計し、表に示すように固定費・需要家費と変動費に案分する。  
固定費・需要家費は基本使用料、変動費は従量使用料の対象経費となっている。

## 2. 料金改定に関する検討

### (3) 現状の使用料体系と使用料収入について

- 使用料体系については、二部料金制の遞増型（使用水量が増加するほど単価が上がる）を採用している。

区分	料金構成	特徴	メリット	デメリット	
一部料金	定額使用料のみ	全ての利用者が一定額を負担	<ul style="list-style-type: none"><li>➤ 徴収事務が簡便</li><li>➤ 料金がわかりやすい</li><li>➤ 使用料収入が安定</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>➤ 節水の動機付けがない</li><li>➤ 小口利用者に不利</li></ul>	
	従量料金のみ	全ての利用者が使用量に比例して負担	<ul style="list-style-type: none"><li>➤ 料金体系が単純で分かりやすい</li><li>➤ 使用量に応じた公平性が高い</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>➤ 固定的な費用を回収しにくい</li><li>➤ 使用量減少時に収入が減少しやすい</li></ul>	
二部料金	遞増型	大口利用者ほど単価が上昇	<ul style="list-style-type: none"><li>➤ 節水意識の向上</li><li>➤ 小口利用者の負担軽減</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>➤ 大口利用者に不公平感が出る可能性</li><li>➤ 産業利用への影響大</li><li>➤ 使用料収入が不安定</li></ul>	
	遞減型	基本料金+従量料金	大口利用者ほど単価が低下	<ul style="list-style-type: none"><li>➤ 産業利用を促進できる</li><li>➤ 徴収が安定しやすい</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>➤ 小口利用者の負担が相対的に大きい</li><li>➤ 節水の動機付けが少ない</li></ul>
	単一型		水量に関係なく単価一定	<ul style="list-style-type: none"><li>➤ 体系がわかりやすい</li><li>➤ 徴収事務が簡便</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>➤ 節水の動機付けが少ない</li><li>➤ 小口利用者に不利</li></ul>

## 2. 料金改定に関する検討

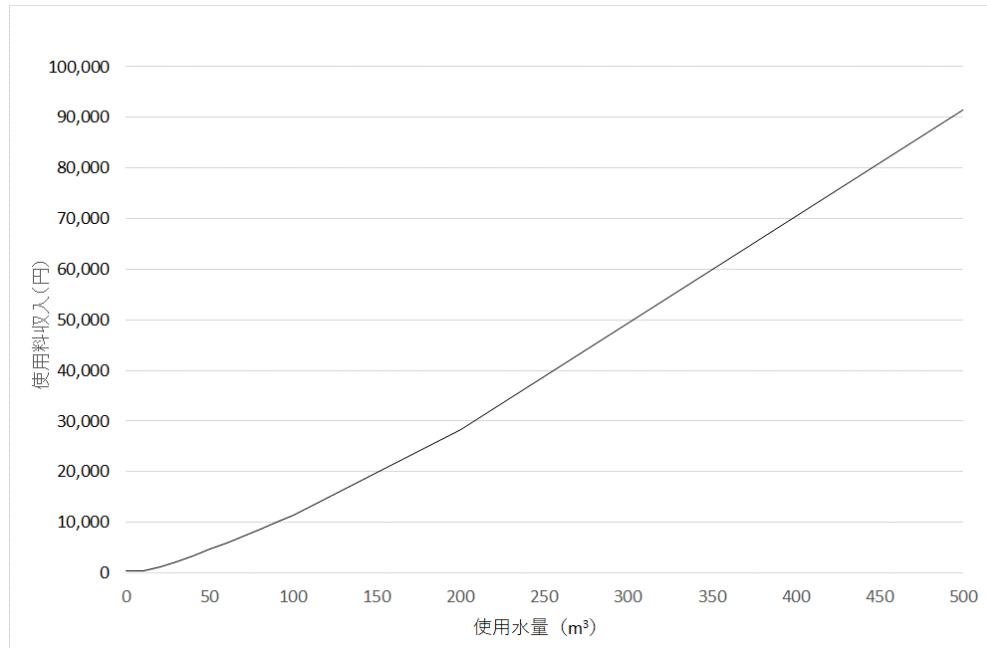
### (3) 現状の使用料体系と使用料収入について

- 使用料体系については、二部料金制の遞増型（使用水量が増加するほど単価が上がる）を採用している。

#### ●現在の使用料体系

用途1	一般家庭用		①現行単価 税込【税抜】
	使用料体系 の水量区画		
	自(m <sup>3</sup> )	至(m <sup>3</sup> )	
基本使用料	0	8	385【350】
従量使用料	9	20	77【70】
	21	30	115【105】
	31	50	132【120】
	51	100	148【135】
	101	200	187【170】
	201	500	231【210】
	501	1,000	275【250】
	1,001		319【290】

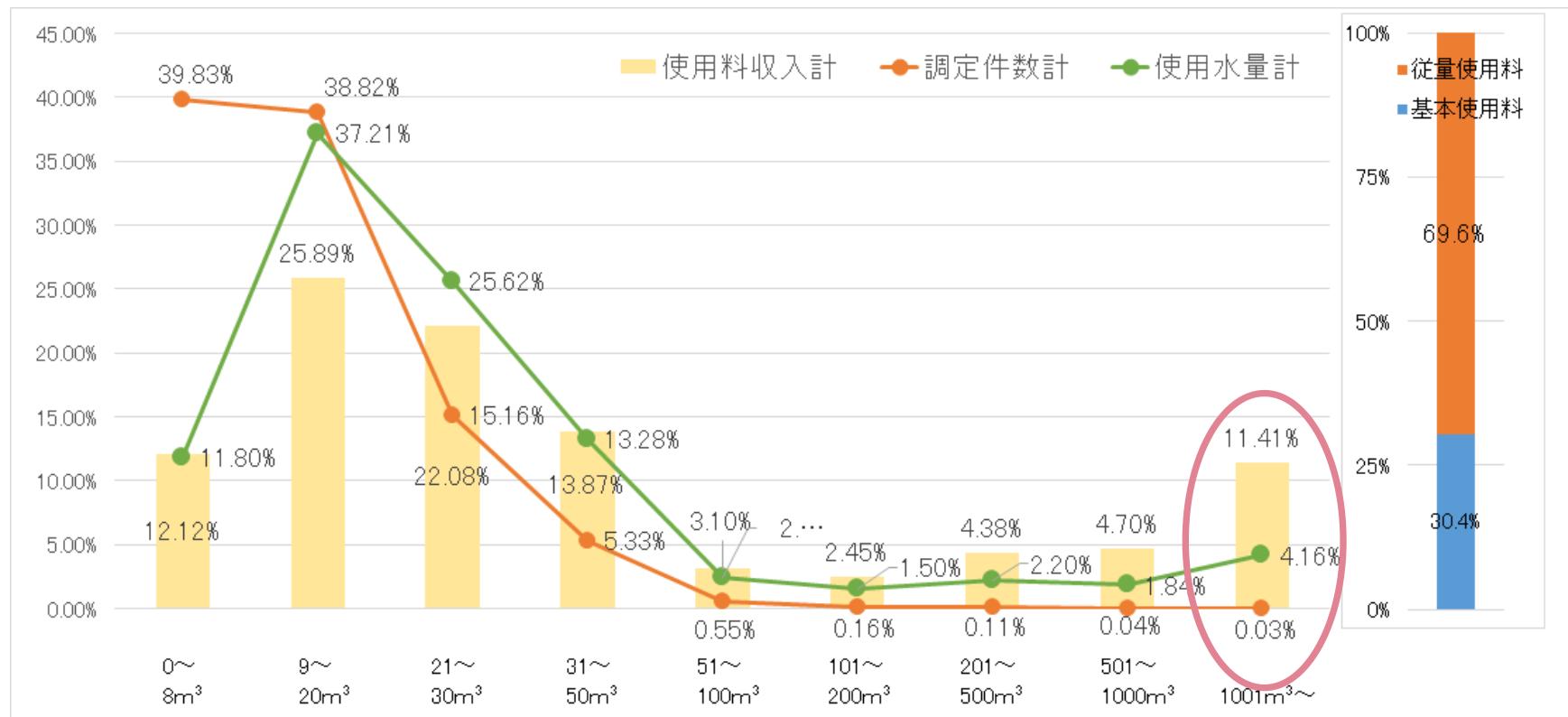
#### ●使用水量に対する使用料



## 2. 料金改定に関する検討

### (3) 現状の使用料体系と使用料収入について

- 遞増体系のため、大口使用者の使用料収入の割合が高くなっている。



## 2. 料金改定に関する検討

### (4) 使用料体系の検討ケース

- ケース設定のための前提条件
- ① 現在遅増の使用料体系となっており、大口使用者に頼った構造になっている。1001m<sup>3</sup>以上の利用者は調定件数では0.03%であるが、使用料収入は1割程度を占めている。**大口利用者の使用水量が経営に大きく影響する**という構造になっているため、経営が不安定化する恐れがある。**⇒そのため、この遅増傾向をさらに拡大していくという方向については検討はしない。**
- ② 現在8m<sup>3</sup>未満は基本使用料のみとなっているが、公平負担という観点も含めて1m<sup>3</sup>から従量課金を設定する案も検討に加える。
- ③ 現在の使用料体系が税抜きで5円単位で設定されているため、今回の使用料体系も同様に5円単位で設定することとする。
- ④ 井戸水使用料については小金井市下水道条例施行規則第37条第1号にて、その使用量は1世帯1か月15m<sup>3</sup>と規定されているため、今回の改定で適用となる使用料体系の基本使用料に15m<sup>3</sup>分の使用料を加えた額とします。

## 2. 料金改定に関する検討

### (4) 使用料体系の検討ケース

#### ➤ 検討ケース

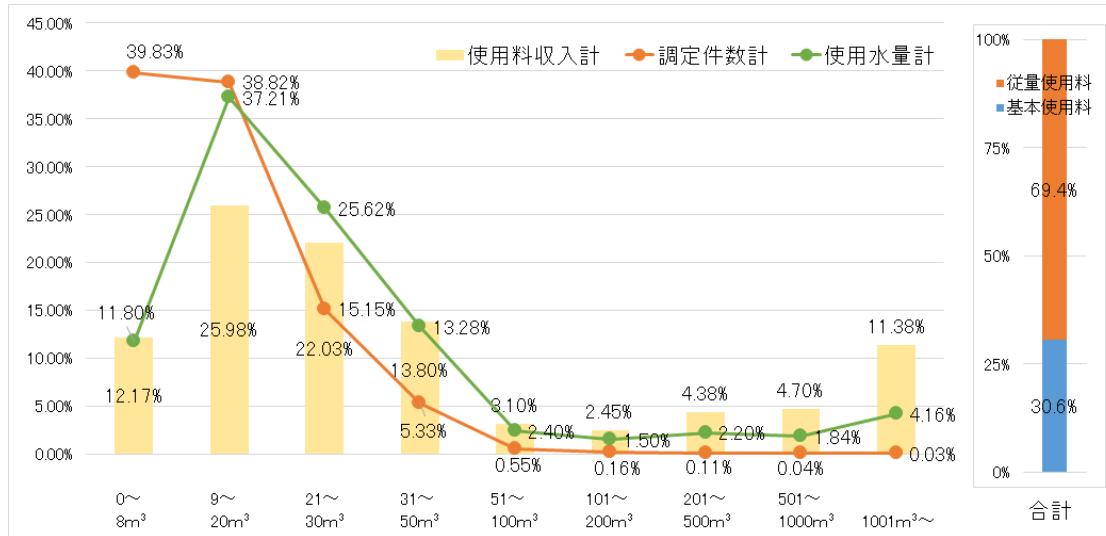
検討ケース	ケース概要
【案1】 全体アップケース	基本使用料、従量使用料、どちらも平均的にアップするケース
【案2】 基本使用料値上げケース	基本使用料のみを値上げするケース
【案3】 遞増緩和ケース	基本使用料、従量使用料、どちらもアップするが遞増の傾向を緩和するケース
【案4】 従量使用料を1m <sup>3</sup> から徴収するケース	基本使用料は大きく上げず、従量使用料を1m <sup>3</sup> から設定するケース
【案5】 従量使用料を1m <sup>3</sup> から徴収し、 基本使用料を下げるケース	基本使用料を下げて、従量使用料を1m <sup>3</sup> から設定するケース

## 2. 料金改定に関する検討

### (5) 使用料体系の検討

#### ➤ 【案1】全体アップケース

用途1	一般家庭用		①現行単価 税込【税抜】	②改定後単価 税込【税抜】	改定率 ②/①-1	改定額 ②-① 税込【税抜】				
	使用料体系 の水量区画									
	自(m <sup>3</sup> )	至(m <sup>3</sup> )								
基本使用料	0	8	385【350】	467【425】	21.3%	82【75】				
従量使用料	9	20	77【70】	93【85】	20.8%	16【15】				
	21	30	115【105】	137【125】	19.1%	22【20】				
	31	50	132【120】	159【145】	20.5%	27【25】				
	51	100	148【135】	181【165】	22.3%	33【30】				
	101	200	187【170】	225【205】	20.3%	38【35】				
	201	500	231【210】	280【255】	21.2%	49【45】				
	501	1,000	275【250】	330【300】	20.0%	55【50】				
	1,001		319【290】	385【350】	20.7%	66【60】				



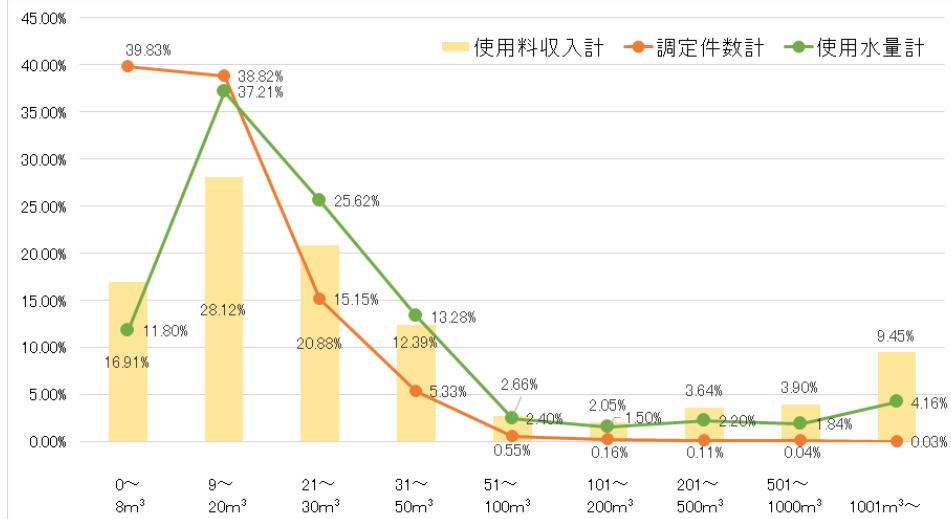
使用水量 (m <sup>3</sup> )	現行使用料 体系	【案1】 全体アップケース		
		使用料	使用料	値上げ率
0	385	467	21.3%	82
1	385	467	21.3%	82
2	385	467	21.3%	82
3	385	467	21.3%	82
4	385	467	21.3%	82
5	385	467	21.3%	82
6	385	467	21.3%	82
7	385	467	21.3%	82
8	385	467	21.3%	82
9	462	561	21.4%	99
10	539	654	21.3%	115
20	1,309	1,589	21.4%	280
30	2,464	2,964	20.3%	500
40	3,784	4,559	20.5%	775
50	5,104	6,154	20.6%	1,050
60	6,589	7,969	20.9%	1,380
70	8,074	9,784	21.2%	1,710
80	9,559	11,599	21.3%	2,040
90	11,044	13,414	21.5%	2,370
100	12,529	15,229	21.6%	2,700
200	31,229	37,779	21.0%	6,550
300	54,329	65,829	21.2%	11,500
400	77,429	93,879	21.2%	16,450
500	100,529	121,929	21.3%	21,400
600	128,029	154,929	21.0%	26,900
700	155,529	187,929	20.8%	32,400
800	183,029	220,929	20.7%	37,900
900	210,529	253,929	20.6%	43,400
1,000	238,029	286,929	20.5%	48,900
1,250	317,779	383,179	20.6%	65,400
1,500	397,529	479,429	20.6%	81,900

## 2. 料金改定に関する検討

### (5) 使用料体系の検討

#### ➤ 【案2】基本使用料値上げケース

用途1	一般家庭用		①現行単価 税込【税抜】	②改定後単価 税込【税抜】	改定率 ②/①-1	改定額 ②-① 税込【税抜】				
	使用料体系 の水量区画									
	自(m <sup>3</sup> )	至(m <sup>3</sup> )								
基本使用料	0	8	385【350】	649【590】	68.6%	264【240】				
従量使用料	9	20	77【70】	77【70】	0.0%	0【0】				
	21	30	115【105】	115【105】	0.0%	0【0】				
	31	50	132【120】	132【120】	0.0%	0【0】				
	51	100	148【135】	148【135】	0.0%	0【0】				
	101	200	187【170】	187【170】	0.0%	0【0】				
	201	500	231【210】	231【210】	0.0%	0【0】				
	501	1,000	275【250】	275【250】	0.0%	0【0】				
	1,001		319【290】	319【290】	0.0%	0【0】				



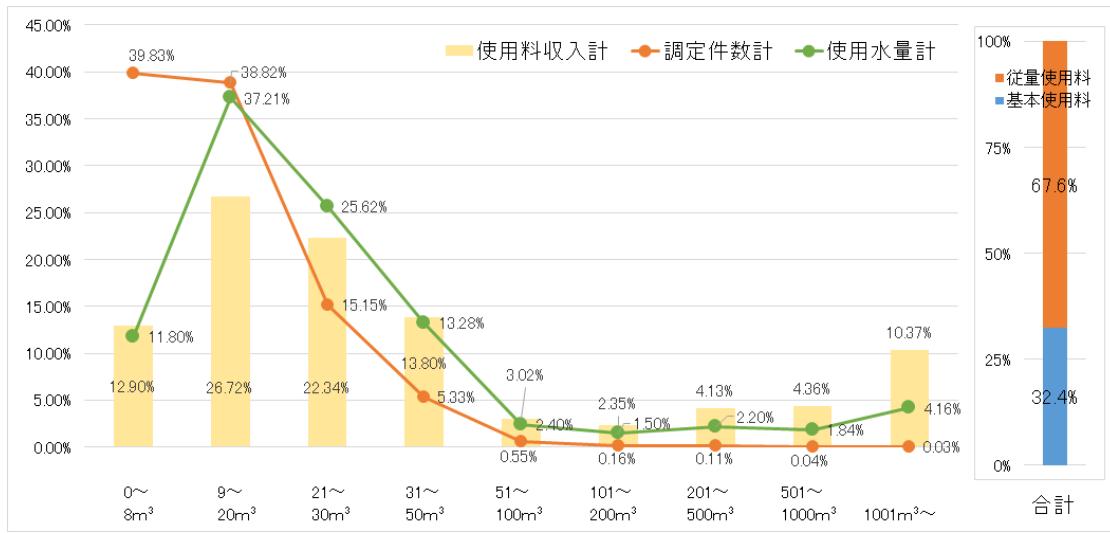
使用水量 (m <sup>3</sup> )	現行使用料体系	【案2】 基本使用料値上げケース		
		使用料	値上げ率	値上げ額
0	385	649	68.6%	264
1	385	649	68.6%	264
2	385	649	68.6%	264
3	385	649	68.6%	264
4	385	649	68.6%	264
5	385	649	68.6%	264
6	385	649	68.6%	264
7	385	649	68.6%	264
8	385	649	68.6%	264
9	462	726	57.1%	264
10	539	803	49.0%	264
20	1,309	1,573	20.2%	264
30	2,464	2,728	10.7%	264
40	3,784	4,048	7.0%	264
50	5,104	5,368	5.2%	264
60	6,589	6,853	4.0%	264
70	8,074	8,338	3.3%	264
80	9,559	9,823	2.8%	264
90	11,044	11,308	2.4%	264
100	12,529	12,793	2.1%	264
200	31,229	31,493	0.8%	264
300	54,329	54,593	0.5%	264
400	77,429	77,693	0.3%	264
500	100,529	100,793	0.3%	264
600	128,029	128,293	0.2%	264
700	155,529	155,793	0.2%	264
800	183,029	183,293	0.1%	264
900	210,529	210,793	0.1%	264
1,000	238,029	238,293	0.1%	264
1,250	317,779	318,043	0.1%	264
1,500	397,529	397,793	0.1%	264

## 2. 料金改定に関する検討

### (5) 使用料体系の検討

#### ➤ 【案3】遅増緩和ケース

用途1	一般家庭用		①現行単価 税込【税抜】	②改定後単価 税込【税抜】	改定率 ②/①-1	改定額 ②-① 税込【税抜】				
	使用料体系 の水量区画									
	自(m <sup>3</sup> )	至(m <sup>3</sup> )								
基本使用料	0	8	385 【350】	495 【450】	28.6%	110 【100】				
従量使用料	9	20	77 【70】	93 【85】	20.8%	16 【15】				
	21	30	115 【105】	137 【125】	19.1%	22 【20】				
	31	50	132 【120】	154 【140】	16.7%	22 【20】				
	51	100	148 【135】	170 【155】	14.9%	22 【20】				
	101	200	187 【170】	214 【195】	14.4%	27 【25】				
	201	500	231 【210】	258 【235】	11.7%	27 【25】				
	501	1,000	275 【250】	302 【275】	9.8%	27 【25】				
	1,001		319 【290】	346 【315】	8.5%	27 【25】				



使用水量 (m <sup>3</sup> )	現行使用料体系	【案3】遅増緩和ケース		
		使用料	値上げ率	値上げ額
0	385	495	28.6%	110
1	385	495	28.6%	110
2	385	495	28.6%	110
3	385	495	28.6%	110
4	385	495	28.6%	110
5	385	495	28.6%	110
6	385	495	28.6%	110
7	385	495	28.6%	110
8	385	495	28.6%	110
9	462	588	27.3%	126
10	539	682	26.5%	143
20	1,309	1,617	23.5%	308
30	2,464	2,992	21.4%	528
40	3,784	4,532	19.8%	748
50	5,104	6,072	19.0%	968
60	6,589	7,777	18.0%	1,188
70	8,074	9,482	17.4%	1,408
80	9,559	11,187	17.0%	1,628
90	11,044	12,892	16.7%	1,848
100	12,529	14,597	16.5%	2,068
200	31,229	36,047	15.4%	4,818
300	54,329	61,897	13.9%	7,568
400	77,429	87,747	13.3%	10,318
500	100,529	113,597	13.0%	13,068
600	128,029	143,847	12.4%	15,818
700	155,529	174,097	11.9%	18,568
800	183,029	204,347	11.6%	21,318
900	210,529	234,597	11.4%	24,068
1,000	238,029	264,847	11.3%	26,818
1,250	317,779	351,472	10.6%	33,693
1,500	397,529	438,097	10.2%	40,568

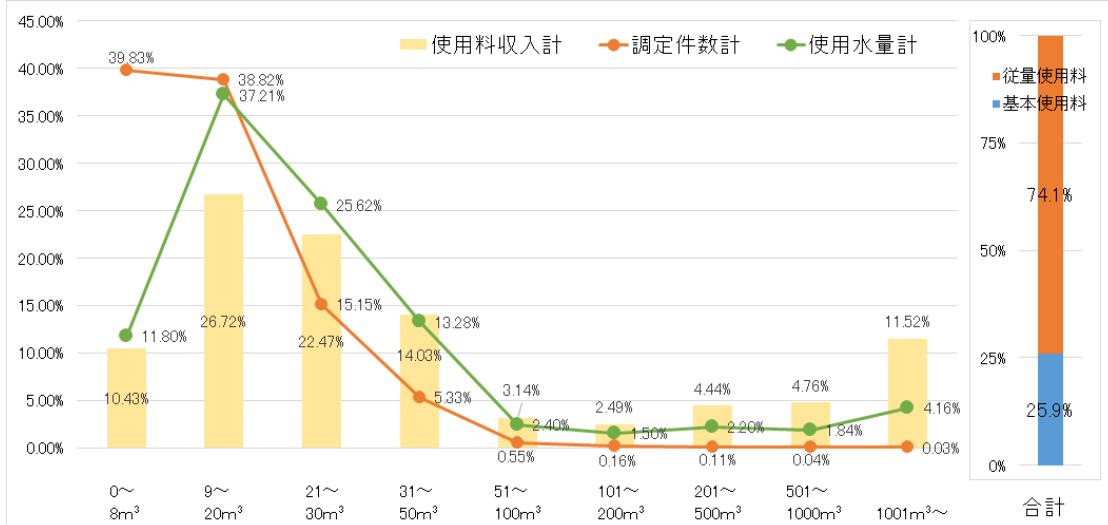
単位：円（税込） 14

## 2. 料金改定に関する検討

### (5) 使用料体系の検討

#### ➤ 【案4】従量使用料を1m<sup>3</sup>から徴収するケース

用途1	一般家庭用		①現行単価 税込【税抜】	②改定後単価 税込【税抜】	改定率 ②/①-1	改定額 ②-① 税込【税抜】				
	使用料体系 の水量区画									
	自(m <sup>3</sup> )	至(m <sup>3</sup> )								
基本使用料	-	-	385【350】	396【360】	2.9%	11【10】				
従量使用料	1	8	0【0】	11【10】	-	11【10】				
	9	20	77【70】	93【85】	20.8%	16【15】				
	21	30	115【105】	137【125】	19.1%	22【20】				
	31	50	132【120】	159【145】	20.5%	27【25】				
	51	100	148【135】	181【165】	22.3%	33【30】				
	101	200	187【170】	225【205】	20.3%	38【35】				
	201	500	231【210】	280【255】	21.2%	49【45】				
	501	1,000	275【250】	330【300】	20.0%	55【50】				
	1,001		319【290】	385【350】	20.7%	66【60】				



使用水量 (m <sup>3</sup> )	現行使用料体系	【案4】従量使用料を1m <sup>3</sup> から徴収するケース		
		使用料	値上げ率	値上げ額
0	385	396	2.9%	11
1	385	407	5.7%	22
2	385	418	8.6%	33
3	385	429	11.4%	44
4	385	440	14.3%	55
5	385	451	17.1%	66
6	385	462	20.0%	77
7	385	473	22.9%	88
8	385	484	25.7%	99
9	462	577	24.9%	115
10	539	671	24.5%	132
20	1,309	1,606	22.7%	297
30	2,464	2,981	21.0%	517
40	3,784	4,576	20.9%	792
50	5,104	6,171	20.9%	1,067
60	6,589	7,986	21.2%	1,397
70	8,074	9,801	21.4%	1,727
80	9,559	11,616	21.5%	2,057
90	11,044	13,431	21.6%	2,387
100	12,529	15,246	21.7%	2,717
200	31,229	37,796	21.0%	6,567
300	54,329	65,846	21.2%	11,517
400	77,429	93,896	21.3%	16,467
500	100,529	121,946	21.3%	21,417
600	128,029	154,946	21.0%	26,917
700	155,529	187,946	20.8%	32,417
800	183,029	220,946	20.7%	37,917
900	210,529	253,946	20.6%	43,417
1,000	238,029	286,946	20.6%	48,917
1,250	317,779	383,196	20.6%	65,417
1,500	397,529	479,446	20.6%	81,917

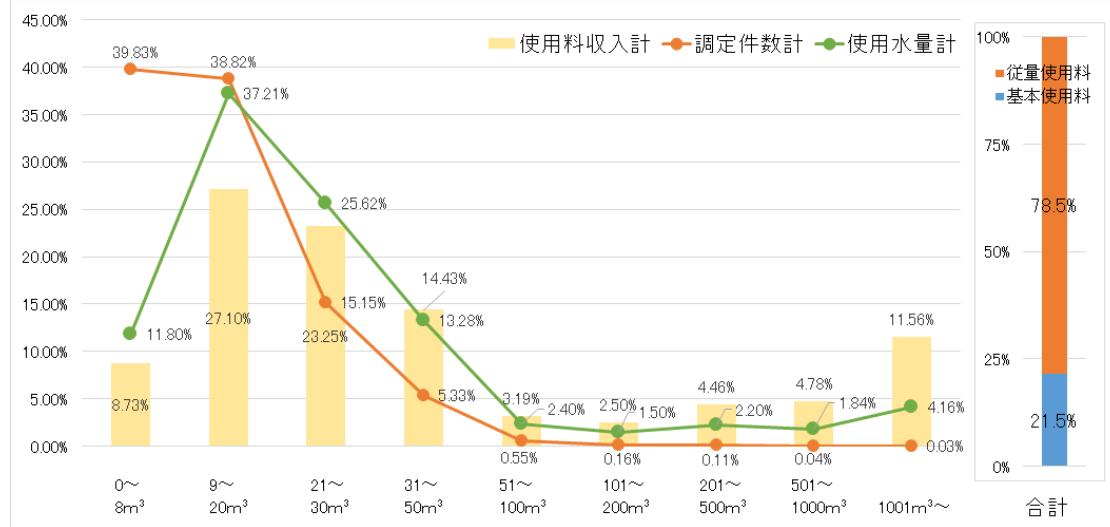
単位：円（税込） 15

## 2. 料金改定に関する検討

### (5) 使用料体系の検討

➤ 【案5】従量使用料を1m<sup>3</sup>から徴収し、基本使用料を下げるケース

用途1	一般家庭用		①現行単価 税込【税抜】	②改定後単価 税込【税抜】	改定率 ②/①-1	改定額 ②-① 税込【税抜】				
	使用料体系 の水量区画									
	自(m <sup>3</sup> )	至(m <sup>3</sup> )								
基本使用料	-	-	385【350】	330【300】	-14.3%	-55【-50】				
従量使用料	1	8	0【0】	16【15】	-	16【15】				
	9	20	77【70】	99【90】	28.6%	22【20】				
	21	30	115【105】	143【130】	24.3%	28【25】				
	31	50	132【120】	159【145】	20.5%	27【25】				
	51	100	148【135】	181【165】	22.3%	33【30】				
	101	200	187【170】	225【205】	20.3%	38【35】				
	201	500	231【210】	280【255】	21.2%	49【45】				
	501	1,000	275【250】	330【300】	20.0%	55【50】				
	1,001		319【290】	385【350】	20.7%	66【60】				



使用水量 (m <sup>3</sup> )	現行使用料 体系	【案5】従量使用料を1m <sup>3</sup> から徴収するケース(基本使用料値下げ)		
		使用料	使用料	値上げ率
0	385	330	-14.3%	-55
1	385	346	-10.1%	-39
2	385	363	-5.7%	-22
3	385	379	-1.6%	-6
4	385	396	2.9%	11
5	385	412	7.0%	27
6	385	429	11.4%	44
7	385	445	15.6%	60
8	385	462	20.0%	77
9	462	561	21.4%	99
10	539	660	22.4%	121
20	1,309	1,650	26.1%	341
30	2,464	3,080	25.0%	616
40	3,784	4,675	23.5%	891
50	5,104	6,270	22.8%	1,166
60	6,589	8,085	22.7%	1,496
70	8,074	9,900	22.6%	1,826
80	9,559	11,715	22.6%	2,156
90	11,044	13,530	22.5%	2,486
100	12,529	15,345	22.5%	2,816
200	31,229	37,895	21.3%	6,666
300	54,329	65,945	21.4%	11,616
400	77,429	93,995	21.4%	16,566
500	100,529	122,045	21.4%	21,516
600	128,029	155,045	21.1%	27,016
700	155,529	188,045	20.9%	32,516
800	183,029	221,045	20.8%	38,016
900	210,529	254,045	20.7%	43,516
1,000	238,029	287,045	20.6%	49,016
1,250	317,779	383,295	20.6%	65,516
1,500	397,529	479,545	20.6%	82,016

## 2. 料金改定に関する検討

### (5) 使用料体系の検討

#### ➤ 各ケースにおける使用水量ごとの使用料 (税込)

小口使用者の値  
上げ率が高い

使用水量 (m <sup>3</sup> )	現行使用料 体系	【案1】 全体アップケース			【案2】 基本使用料値上げケース			【案3】 遅増緩和ケース			【案4】従量使用料を1m <sup>3</sup> から従量 するケース			【案5】従量使用料を1m <sup>3</sup> から従量 するケース(基本使用料値下げ)		
		使用料	使用料	値上げ率	値上げ額	使用料	値上げ率	値上げ額	使用料	値上げ率	値上げ額	使用料	値上げ率	値上げ額	使用料	値上げ率
0	385	467	21.3%	82	649	68.6%	264	495	28.6%	110	396	2.9%	11	330	-14.3%	-55
1	385	467	21.3%	82	649	68.6%	264	495	28.6%	110	407	5.7%	22	346	-10.1%	-39
2	385	467	21.3%	82	649	68.6%	264	495	28.6%	110	418	8.6%	33	363	-5.7%	-22
3	385	467	21.3%	82	649	68.6%	264	495	28.6%	110	429	11.4%	44	379	-1.6%	-6
4	385	467	21.3%	82	649	68.6%	264	495	28.6%	110	440	14.3%	55	396	2.9%	11
5	385	467	21.3%	82	649	68.6%	264	495	28.6%	110	451	17.1%	66	412	7.0%	27
6	385	467	21.3%	82	649	68.6%	264	495	28.6%	110	462	20.0%	77	429	11.4%	44
7	385	467	21.3%	82	649	68.6%	264	495	28.6%	110	473	22.9%	88	445	15.6%	60
8	385	467	21.3%	82	649	68.6%	264	495	28.6%	110	484	25.7%	99	462	20.0%	77
9	462	561	21.4%	99	726	57.1%	264	588	27.3%	126	577	24.9%	115	561	21.4%	99
10	539	654	21.3%	115	803	49.0%	264	682	26.5%	143	671	24.5%	132	660	22.4%	121
20	1,309	1,589	21.4%	280	1,573	20.2%	264	1,617	23.5%	308	1,606	22.7%	297	1,650	26.1%	341
30	2,464	2,964	20.3%	500	2,728	10.7%	264	2,992	21.4%	528	2,981	21.0%	517	3,080	25.0%	616
40	3,784	4,559	20.5%	775	4,048	7.0%	264	4,532	19.8%	748	4,576	20.9%	792	4,675	23.5%	891
50	5,104	6,154	20.6%	1,050	5,368	5.2%	264	6,072	19.0%	968	6,171	20.9%	1,067	6,270	22.8%	1,166
60	6,589	7,969	20.9%	1,380	6,853	4.0%	264	7,777	18.0%	1,188	7,986	21.2%	1,397	8,085	22.7%	1,496
70	8,074	9,784	21.2%	1,710	8,338	3.3%	264	9,482	17.4%	1,408	9,801	21.4%	1,727	9,900	22.6%	1,826
80	9,559	11,599	21.3%	2,040	9,823	2.8%	264	11,187	17.0%	1,628	11,616	21.5%	2,057	11,715	22.6%	2,156
90	11,044	13,414	21.5%	2,370	11,308	2.4%	264	12,892	16.7%	1,848	13,431	21.6%	2,387	13,530	22.5%	2,486
100	12,529	15,229	21.6%	2,700	12,793	2.1%	264	14,597	16.5%	2,068	15,246	21.7%	2,717	15,345	22.5%	2,816
200	31,229	37,779	21.0%	6,550	31,493	0.8%	264	36,047	15.4%	4,818	37,796	21.0%	6,567	37,895	21.3%	6,666
300	54,329	65,829	21.2%	11,500	54,593	0.5%	264	61,897	13.9%	7,568	65,846	21.2%	11,517	65,945	21.4%	11,616
400	77,429	93,879	21.2%	16,450	77,693	0.3%	264	87,747	13.3%	10,318	93,896	21.3%	16,467	93,995	21.4%	16,566
500	100,529	121,929	21.3%	21,400	100,793	0.3%	264	113,597	13.0%	13,068	121,946	21.3%	21,417	122,045	21.4%	21,516
600	128,029	154,929	21.0%	26,900	128,293	0.2%	264	143,847	12.4%	15,818	154,946	21.0%	26,917	155,045	21.1%	27,016
700	155,529	187,929	20.8%	32,400	155,793	0.2%	264	174,097	11.9%	18,568	187,946	20.8%	32,417	188,045	20.9%	32,516
800	183,029	220,929	20.7%	37,900	183,293	0.1%	264	204,347	11.6%	21,318	220,946	20.7%	37,917	221,045	20.8%	38,016
900	210,529	253,929	20.6%	43,400	210,793	0.1%	264	234,597	11.4%	24,068	253,946	20.6%	43,417	254,045	20.7%	43,516
1,000	238,029	286,929	20.5%	48,900	238,293	0.1%	264	264,847	11.3%	26,818	286,946	20.6%	48,917	287,045	20.6%	49,016
1,250	317,779	383,179	20.6%	65,400	318,043	0.1%	264	351,472	10.6%	33,693	383,196	20.6%	65,417	383,295	20.6%	65,516
1,500	397,529	479,429	20.6%	81,900	397,793	0.1%	264	438,097	10.2%	40,568	479,446	20.6%	81,917	479,545	20.6%	82,016

値上げ率が  
概ね一定

大口使用者の  
値上げ額が大きい

一定額の値上げ

大口使用者の値  
上げが緩和

大口使用者の  
値上げ額が大きい

現行単価  
より値下げ  
となる。

## 2. 料金改定に関する検討

### (5) 使用料体系の検討

#### ➤ 各ケースのメリットデメリット

検討 ケース	【案1】 全体アップ ケース	【案2】 基本使用料 値上げケース	【案3】 遅増緩和ケース	【案4】 従量使用料を1m <sup>3</sup> か ら徴収するケース	【案5】 基本使用料を下 げて従量使用料を1m <sup>3</sup> から徴収するケー ス
メリット	<ul style="list-style-type: none"><li>➤ <u>全使用者の値上げ率が概ね一定</u>であり、負担が極端に上がる使用者がない。</li><li>➤ <u>全使用者が一定額負担が上がる。</u></li><li>➤ 大口使用者の値上げ率が低く、<u>経営の安定性</u>が増す。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>➤ <u>全使用者が一定額負担が上がる。</u></li><li>➤ 大口使用者の値上げ率が低く、<u>経営の安定性</u>が増す。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>➤ 全体に値上げがあり、<u>極端に負担が増加する使用者層がない</u>。</li><li>➤ 大口使用者の値上げ率が低く、<u>経営の安定性</u>が増す。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>➤ 小量から従量使用料を徴収するため、<u>使用料に基づく適正負担の形</u>となる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>➤ 小量から従量使用料を徴収するため、<u>使用料に基づく適正負担の形</u>となる。</li><li>➤ 小口使用者の負担が軽減される。</li></ul>
デメ リット	<ul style="list-style-type: none"><li>➤ <u>大口使用者の値上げ額が大きく、経営の安定性に懸念あり</u></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>➤ <u>小口使用者の値上げ率が高い。</u></li><li>➤ 基本使用料の比率が大きくなり、<u>固定的経費・変動的経費との比率に差</u>が出てしまう。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>➤ 案2と比べると<u>経営の安定性に懸念</u>が残る。</li><li>➤ 案1と比べると<u>小口使用者の値上げ率が高い</u>。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>➤ 特に8m<sup>3</sup>程度利用する使用者の値上げ率が高い。</li><li>➤ 基本使用料の比率が下がり、<u>固定的経費・変動的経費との比率に差</u>が出てしまう。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>➤ 基本使用料の比率が下がり、<u>固定的経費・変動的経費との比率に差</u>が出てしまう。</li><li>➤ <u>大口使用者の値上げ額が大きく、経営の安定性に懸念あり</u></li></ul>

## 2. 料金改定に関する検討

### (5) 使用料体系の検討

#### ➤ 井戸水利用者（家事用）の使用料の取り扱い

この使用料は、動力式揚水設備がなく、かつ、家事のみに使用される井戸について適用されるもので、小金井市下水道条例施行規則第37条第1号にて、その使用量は1世帯1か月15m<sup>3</sup>と規定されています。よって、今回の改定で適用となる使用料体系の基本使用料に15m<sup>3</sup>分の使用料を加えた額とします。

#### ➤ 公衆浴場使用料の取扱い

本市では「公衆浴場の確保のための特別措置に関する法律」第6条（国又は地方公共団体は公衆浴場について、その確保を図るために必要と認める場合には、所用の助成その他必要な措置を講じるように、努めるものとする。）に基づき、浴場については一般と異なる使用料を設定しています。

現在、市内の公衆浴場は1つのみであり、公衆浴場を取り巻く環境は厳しさを増しており、公衆衛生の確保に向けた対応が必要です。よって、浴場の使用料については、改定を行わず、現行どおり1m<sup>3</sup>あたり13円とします。

### 3.今後のスケジュール

- ◆ 12月に答申案作成、1月に答申を行う
- ◆ 審議会からの答申を受け、下水道使用料の条例改正案をR8.3月議会に上程し、R9.4月から改定した料金体系を適用
- ◆ 総合計画の案はR8.10月頃にパブリックコメントを実施した上で、それらを反映し、R8年度末に公表予定

